



×



⑩

The Third Year

明けましておめでと
うございます。今年も、
編集生たちと一緒に、
より良い未来を目指す
ための記事を発信して
いきます！

ハーバード大学の政
治学者であるエリカ・
チエノウスが発見した
興味深い法則をご紹介
します。それは、20世
紀の様々な抗議行動を
調査したところ、人口
の35%以上の人々が、非暴力的活
動に関与すれば改革は進み、武力
紛争よりも2倍以上の成功率があ
るといふ研究です。みなさんの小
さな行動が、35%にまで広がれば、
社会が変わる可能性があるのです。



○るーな
・高校1年生

今回はコピー用紙の再利用に関
する私のエピソードを紹介しま
す。私は幼いころから絵を描くこ
が好きです。小学生のころ私が持
っていたノートは全て方眼付きだ
ったため、マスのない紙に絵を描
きたいと思うようになりました。
しかし家にある未使用の用紙を使
うのはもったいないと感じた私は、
学校で配られる紙の裏面を使って
絵を描くことにしました。今も、
使用済みでも絵を描けそうな用紙
は私の絵描きファイルに仕舞うよ
うにしています。現在私の暮らす
寮では紙ごみの分別が無く燃える

ごみにしているため、このような
習慣があり良かったと感じていま
す。

近年は紙ごみもボール紙や絵本
などにリサイクルされていたり、
そもそも紙を使わず電子でやりと
りを行うことも多くなりました。
しかし、紙を含め無駄にものを消
費することは金銭面でも、賢く生
きる上でもあまり良いこととは言
えないのではないのでしょうか？
「もったいない」と感じたらすべ
く行動してみてください！

中学生のころに描いた絵。予備として配ら
れた原稿用紙を使っています





○ぶりん
・高校2年生

私はプラスチック問題が、どのように環境や社会に変化を与えていくのに関心があります。そこで、マイバッグを使うように心掛けるようになりました。その理由は、レジ袋を一回だけ使って捨てることがほとんどだったからです。また、私は今年とある県に行く機会がありました。そこで見たのは、たくさんのお海ごみでした。現地の人に聞いてみると、過去に少し大きい規模で海ごみを回収しようとしたところ、現地の漁師さんと揉めたことがあったそうです。その背景には、国に申請して1日

中海辺のごみ拾いをする、お金が支給されるそうです。漁師さんは天候や魚の有無により、給料も変動します。なので、少しでも安定したお金を受け取りたいという想いもあることを知りました。そこで、私はごみそのものを減らすために、自分ができる行動を考えました。また、海岸に出してしまっただごみなどは、現地の人と対話を通じて、お互いが納得する形で行動していくことをこれからも考え続けていこうと思います。



○みのり
・高校2年生

みなさん、地球にやさしい暮らしをしたいですか？ そんな方に

お勧めしたい私のアクションは「パワースイフト」です。

近年どんどん暑くなってきた、気候変動というワードが様々なところで叫ばれていますが、その大きな原因となるのが火力発電などによる二酸化炭素の排出といわれています。

もし全ての電気を「再生可能エネルギー」で賄うことができれば気候変動を止められるチャンスが大きくなります！

そのために私たちができることが「パワースイフト」で、各家庭の電力供給源を再生可能エネルギーに変えることです。難しいことのように聞こえますが、電力会社のホームページなどから申し込むことで自宅から簡単に変えることが





○Kako
・高校2年生

私は以前から出かけるとき、必ず



できます。
これは小さなアクションですが、地球を守るために生み出せる大きな変化になります。ぜひ興味のある方は、調べてみてください！



ず水筒を持ち歩くようにしています。それは、のどが乾きやすい、家の麦茶が好き、ペットボトルを買うお金を他に充てたい、自分の水筒のサイズが持ち歩きやすいという理由からでした。最近になって、地球や社会をより良くするための行動として、マイボトルを持つことを推奨する声をメディアや学校でも当たり前のように耳にするようになりました。気候危機の対策として、個人でできる小さなアクションだと思います。一方で、食品のトレイ、包装や自動販売機のペットボトル容器などプラスチック用品が日常に溢れています。やむを得ず、ペットボトルを買うことはありますが、そこには環境負荷に加担してしまう責任を感じ



るようになりました。水筒を持ち歩き始めると、余分に使うお金も減り、また、水筒に水を無料で入れることができる場所が増え、少しずつ誰でも地球に良い行動が簡単にできる社会になってきています。マイボトルを持つ行動も大切ですが、同時に、当たり前になっていた「考え方」を変えていくことも大切に思うようになりました。自分のために始めた行動が地球環境の改善につながることを実感できる水筒の持ち歩き。その結果、自分の考え方も変化していることに気がつきました。



協力：一般社団法人シンク・ジ・アース / 新渡戸文化高等学校教諭 山藤旅蘭

